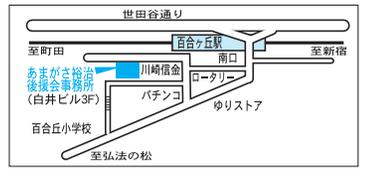




発行所／みらい川崎市議会議員団事務局
 〒210-8577
 川崎市川崎区宮本町1番地 川崎市役所第二庁舎内
 TEL:044-200-3355 FAX:044-245-4135

百合丘事務所 〒215-0011
 川崎市麻生区百合丘1-20-7 白井ビル3F
 小田急線百合ヶ丘駅下車徒歩1分
 TEL・FAX:044-955-2417
 メール: amagasa@khaki.plala.or.jp



ホームページ: <http://www.e-amagasa.net> Facebook、ツイッターでも情報発信しています。

高齢者のインフルエンザ予防接種が無料に 令和2年度に限り、自己負担を全額公費負担に。積極的に医療機関に予約を

コロナ禍の施策検証とコロナ後の社会に適応する行政のあり方について

1) 新型コロナウイルス感染症と 季節性インフルエンザの同時流行を防ぐ

あまがさ裕治 > 世界保健機構や日本感染症学会からもインフルエンザワクチン接種が強く奨励されている。少なくとも65歳以上のインフルエンザ予防接種の自己負担分の助成を拡大し、予防接種の勧奨を提案します。

健康福祉局長 > 予防接種法に基づく定期接種対象者である高齢者に対して、昨日の県議会で県知事から自己負担無料化について発言もあり、関係部局や関係機関と必要な検討を行う。

定期的インフルエンザ予防接種無料の対象となる方(川崎市内在住で)

1. 満65歳以上の方
2. 接種日に満60歳～65歳未満で
心臓、腎臓、呼吸器の機能障害、HIVウイルスによる免疫機能障害(障害1級程度)のある方

指導内容は? 3) オンライン指導については、不登校の児童生徒の指導に有効であるとの評価があるが、どのように活用するのか?

教育次長 > 9月3日現在、175校中169校がオンライン活用に取り組み、残りの6校も取り組む予定。7月の調査結果で、家庭のWi-Fi環境が整っていない割合は約3.8%。指導方法について、全教職員に、理念や活用イメージについて周知し、端末導入時には支援員による区ごとの集合研修や訪問指導を実施。また、GIGAスクールサポーターを区ごとに配備する。Wi-Fi環境のない家庭には、11月末以降にモバイルルーター貸出しを計画、端末も1人1台端末が整うまでは、既存の端末を活用していく。

2) オンライン指導に先行的に取り組んでいる学校の事例を基に指導方法等を検討し、今年度中に各学校に示す。今年度中に再度長期の臨時休業となった場合は、未整備校でもオンライン指導に取り組めるように支援する。

3) ゆうゆう広場や不登校家庭訪問相談に登録している児童生徒を中心に、希望者にICT活用で学習支援を行っている。1人1台端末の導入に伴い、本人の過度な負担となることがないように配慮しながら、オンライン学習等、他都市での事例も参考にしながら効果的な活用方法を検討し、今年度中に各学校に示していく 【裏面へ続く】



令和2年9月11日、
15回目の代表質問に立ち、
●項目にわたる質問をしました

川崎市議会議員 あまがさ裕治

2) 教育環境デジタル化推進に向けて GIGAスクール構想端末整備事業費

あまがさ裕治 > GIGAスクール構想推進事業費や端末整備事業費により、全ての家庭にWi-Fi環境が整い、全ての児童生徒に1人1台のパソコン端末が整備されます。そこで、来年4月に整備されるまでの間にパソコン端末を活用した指導方法をどのように構築するのか? 2) 学校休業に備えて、オンライン指導実現の目標時期と

市内ルートは川崎市が事業推進を! まちづくりの視点がないと開業時期は守れない!

今年1月に、横浜市営地下鉄3号線(ブルーライン)の延伸事業の「概略ルート」と「駅位置」が発表されました。ルートは、単に線を引いただけであり、駅位置はエリアが直径約500mという広い円で示されたのみで具体的な場所が確定されていません。3月の川崎市議会の代表質問と私の質問で確認しました。この段階で実に具体性のない答弁です。事業の促進を意識し進める必要が求められているのに、実態に即した詳細な内容が無いままの市の判断は二度手間にすぎず仕事として稚拙なものと言わざるを得ません。

1) 今後、具体的なルートと駅位置はどのような調査と手法で決まるのか?

まちづくり局 > 地質調査や、航空写真測量等に加え、技術基準の適合や施工性、権利設定の容易性などを考慮しながら、事業主体の横浜市が具体化する。川崎市は早期事業着手に向け連携する。

あまがさの考え > これまでも、私は一日でも早く開通させるには用地取得が少ないルートをイメージして臨むことが不可欠であることを主張し続けて参りました。繰り返しになりますが、交通政策審議会が横浜市営地下鉄3号線延伸に対する答申が出される段階で、私は国土交通省の鉄道課長から「事業を早期に進めていくためには民地の下をなるべく避けたルート選定は重要な事項であり、これを踏まえて計画しなければ反対運動にもつながる可能性もあり、何年もの遅れにつながります」と言われました。大前提として考慮しておかなければならないことですよ、と念を押されたわけです。今回示されたルートは、なるべく工事幅が確保可能な都市計画道路尻手黒川線を中心に想定しても、どれだけ用地交渉が必要になるでしょうか。 【裏面へ続く】

横浜市営地下鉄3号線
延伸による
麻生区のまちづくり



2) ルートや駅位置の環境影響評価手続きと都市計画手続きの時期は？ 用地交渉は？

まちづくり局 > 手続きに一般的には4、5年かかる。用地取得についてはその後、横浜市が行う。川崎市域内は、横浜市と協議調整し、協力して進めていきたい。

あまがさの考え > これだけ何度も指摘してきているのに、市はルート選定において用地取得の容易性は評価項目とするものではない。用地取得は横浜市が行うもの、と説明しています。市内の状況をより知っている川崎市は、協力するというスタンスにとどまるのでしょうか？

<2030年度開業目標。着工は5年後以降>

3) 工事着工の予定時期は？

まちづくり局 > 4、5年かかる手続き終了後、2030（令和12）年度の開業目標に向け、工事を進める。

あまがさの考え > この開業目標を確実に、できればさらに早い開業を目指すためには、ルート選定と駅位置を川崎市が主体的に検討し、横浜市と協議すべきです。

<駅工事は開削。工事ヤードや南口の交通機能維持が課題>

4) 駅前に用地がないので、開削しない工法はあるのか？

まちづくり局 > 地下鉄の駅は開削工事が一般的。

5) 工事をするための暫定バスロータリーなどの考え方は？

まちづくり局 > 新百合ヶ丘駅周辺の事業上の課題は、①施工時の工事ヤードの確保②南口広場など、駅周辺の交通機能維持がある。

<来年度に駅周辺まちづくり方針発表>

6) 延伸事業と新百合ヶ丘の再開発を事業推進にあたりどう検討するのか？

まちづくり局 > 広域拠点としての交通結節機能のあり方なども2021（令和3年）年度に「新百合ヶ丘駅周辺のまちづくり方針」を策定する。

あまがさの考え > あざみ野駅を参考に新百合ヶ丘新駅の大きさを赤い四角で表してみました。開削（その部分を上から掘っていく）工事が必要だとすると、もし、南口ロータリーの位置に駅を造ろうと思うと、ロータリーの半分以上をつぶして穴を掘らなければなりません。ロータリーを活かしてOPAやエルミロードの裏の道を開削するには、道路幅だけでは足りません。これだけの大工事になるのに、工事期間中のまちの機能をどう確保するのか、その後のまちづくりはどのようにしていくのかという点は「課題」としか答弁がありません。市は、2021（令和3）年に「まちづくり方針」を策定するとしていますが、新百合ヶ丘駅の位置はそれまで確定されないのでしょうか？

また、ヨネッティ王禅寺周辺の航空写真に、想定される駅の大きさの赤枠を置いてみました。この辺りは高低差が大きく、さらにヨネッティの建物、リニア新幹線の通風口などが迫り、尻手黒川線は橋脚に防音壁がある部分もあります。市が説明する宮前区方面への交通結節点としての整備が可能なのでしょうか？

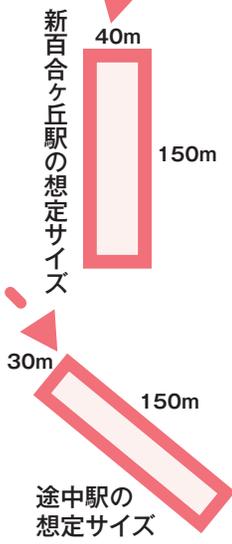
不確かなことばかりで、2030年という開業目標が守れるのか不安です。川崎市内は、まちのことをよく知っている川崎市が、もっと主体的に推進すべきだと考えます。

コロナ禍の施策検証とコロナ後の社会に適應する行政のあり方について（1面からの続き）

3) 5月13日総務委員会で緊急時における政策の優先順位のあり方を正しました

あまがさ裕治 > 「川崎じもと応援券」を政策選択したというが、裏付けが明らかではない。沈みかけている、瀬戸際の小規模事業者の事業運営をシミュレーションしたら、例えば家賃一月分の3分の2にあたる10万円の支給という、真水を出す、リアルな政策をつくらないのか？「川崎じもと応援券」は感染拡大のフェーズが終わった後の次の話。順番が違う。瀬戸際のところを考えるのが行政だ、と指摘しました。

実際、10月12日にラーメン店主から「川崎じもと応援券が最初に使われてから、換金までに2ヶ月もかかったと聞きました。「30万円近くが手元資金から無くなり、かえって資金繰りが悪化して困った」ということです。その日の夕方、中川経済労働局長に事業者のリアルな声を伝え、早急な対応を求めました。現在は、支給遅れはないということですが、小規模事業者には命取りになってしまうところでした。



駅的位置はイメージ

横浜市、川崎市が発表した概略ルート駅位置について

横浜市高速鉄道3号線の延伸に伴う駅周辺のまちづくりの方向性

横浜市高速鉄道3号線の延伸（あざみ野～新百合ヶ丘）については、平成31年1月に事業化の判断を発表しました。以降、市民の皆様から事業に対する理解を深めていただくため、本事業の概要や概略ルート・駅位置、今後の事業の進め方等について、令和元年8月に説明会を開催しました。また、同年9月から10月にかけて川崎市側の有力ルート案の考え方について意見募集を実施しました。このたび、横浜市と川崎市は、市民の皆様からの御意見等を踏まえ、本路線に関する概略ルート・駅位置について協議・調整し、以下のとおりおりました。

ヨネッティ王禅寺付近 路線バス等の円滑な駅アクセスを可能とする交通結節機能の強化等による川崎市北部地域の公共交通ネットワークの充実とともに、周辺の住環境に配慮しながら、地域資源の活用等による賑わいの創出など、

駅周辺の活性化に資するまちづくりを進めます。

新百合ヶ丘駅付近 民間活力を活かした土地利用転換の誘導や交通結節機能の強化、駅周辺の回遊性向上を目指し、ハード・ソフト両面での総合的な取組により、広域拠点にふさわしいまちづくりを推進します。

参考想定スケジュール

※開業目標は交通政策審議会答申に目標年次を掲載したものであり、事業スケジュールについては引き続き、横浜市川崎市において精査していきます。

